

安全の手引き（スロベニア）

2025年3月
在スロベニア日本国大使館

目 次

I	はじめに	1
II	安全・防犯対策	1
1	基本的な心構え	1
2	スロベニアにおける犯罪発生状況	2
3	防犯のための具体的注意事項	3
4	交通事情と事故対策	4
5	テロ対策	5
6	誘拐対策	6
7	緊急連絡先等	6
8	緊急時のスロベニア語	7
III	緊急事態対処マニュアル	7
1	平素の準備と心構え	7
2	緊急時の行動	8
3	緊急時に備えてのチェックリスト	9

I はじめに

この手引きは、スロベニアで生活する邦人の方々の安全・快適な生活に資するために作成したものです。一般的な防犯上の心構えと対策などについて記しておりますので、ご活用ください。

II 安全・防犯対策

1 基本的な心構え

(1) 心構えと留意点

「自分と家族の安全は自分たちで守る」、「予防が最良の危機管理である」との意識をもち、行動にあたっては、「目立たない」、「行動を予知されない」、「用心を怠らない」という心構えをもった上で、以下のような点に留意してください。

- ア 現地の法律を守り、風俗や習慣を尊重する。
- イ 危険と思われる場所、デモや集会には近づかない。夜間の外出は控える。
- ウ 多額の現金、貴重品は持ち歩かない。また、人に見せない。
- エ 見知らぬ人を安易に信用しない。
- オ 薬物には絶対に手を出さない。
- カ 現地生活の慣れに気を付ける。
- キ 犯罪にあったら生命の安全を最優先にする。

(2) 在留届と「たびレジ」

ア 在留届

在スロベニア日本国大使館では、国内において大規模な事件・事故等が発生した場合、必要に応じて在留届をもとに皆様の住所や緊急連絡先を確認し、安否確認を行います。スロベニアに3か月以上滞在される方は、在留届を提出してください。在留届は、大使館に直接届け出ることもできますが、インターネットによる届出が便利です。詳細は、在スロベニア日本国大使館ホームページをご覧ください。

在留届：https://www.si.emb-japan.go.jp/itpr_ja/00_000068.html

イ たびレジ

たびレジは、海外旅行や海外に出張する際、旅行日程・滞在先・連絡先などを事前に登録しておく、滞在先の最新の渡航情報や緊急事態発生時の連絡メール、また、いざという時の緊急連絡が受け取れるシステムです。海外への渡航が3か月未満の旅行や出張の場合には、「たびレジ」に登録をお願いします。

なお、既に海外に滞在している方が旅行や出張で他の国に渡航される場合にも、「たびレジ」はご利用いただけますので、是非ご活用ください。

「たびレジ」の詳細は外務省ホームページをご覧ください。

たびレジ : <https://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/index.html>

ウ たびレジ簡易登録

旅行日程はまだ決まっていないものの海外安全情報は入手したいという方や、企業の方向けのサイトです。こちらのサイトで、メールアドレスと情報を入手したい国・地域を指定（複数指定可）すると、対象国・地域の最新海外安全情報メールや、在外公館が発出する緊急一斉通報を入手することができます。

「たびレジ簡易登録」の詳細は外務省ホームページをご覧ください。

たびレジ簡易登録 : <https://www.ezairyu.mofa.go.jp/index.html>

（３）緊急連絡先の把握

事件や事故が発生した際に慌てずに対応できるよう、警察、消防、大使館、所属団体（会社等）、ご友人、日本のご実家や親族等の連絡先をリストにして携帯したり、家族間で共有しておくことをお勧めします。また、ご旅行や出張で他の国に渡航される場合には、万が一に備えて日程と滞在先をご家族や会社等に残すようにしてください。

携帯電話で緊急連絡先等を管理している場合、携帯電話を紛失したり、充電が切れた場合には緊急連絡先等を確認出来なくなることから、携帯電話と併せて緊急連絡先等のリストを書面で管理することをお勧めします。

（４）情報収集

ア 安全な生活を送るためには、滞在地周辺の治安状況を常に把握しておくことが不可欠です。日頃から地元の新聞、テレビ、ラジオ、インターネット等のニュースに注意を払って下さい。

イ スロベニアを含めた世界各国・地域の安全情報については、「外務省海外安全ホームページ」から情報を入手することができます。

外務省海外安全ホームページ : <http://www.anzen.mofa.go.jp/>

２ スロベニアにおける犯罪発生状況

スロベニア内務省の発表によれば、２０２３年の犯罪認知件数は５４，３４４件であり、前年の４９，７４６件から９．２％増加しました。

２０２３年中の犯罪認知件数の約８５％は軽微な一般犯罪で占められており、その主な内訳としては、窃盗が２４，７９９件（５３．７％）、器物損壊が３，４７９件（７．５％）、詐欺が３，３２８件（７．２％）となっています。また、多くの人が集まる場所（観光地、イベント会場等）では、置き引きやスリの被害が発生しており、２０２４年中も日本人観光客が被害に遭っています。当地警察も種々の

取り組みにより各種犯罪の予防・検挙に一定の成果を上げていますが、油断することなく引き続き注意が必要です。

3 防犯のための具体的注意事項等

(1) 住居の選定（なるべく安全安心な住居を選ぶ際の参考チェック例）

- 周辺の治安が良い。
- 敷地内又は敷地周辺に夜間照明がある。
- 集合住宅であれば、なるべく上の階を選ぶ。
- 通勤、通学経路上に治安の悪い場所がない。
- 来訪者を確認するインターホン、テレビ監視装置などがある。
- 集合住宅では、防犯ベル・警報装置などの警備機器が充実している。
- 駐車場（車庫）が敷地内にある。

(2) 防犯対策

- 就寝時に限らず、日頃から確実な施錠を心掛けましょう。
- リュブリャナ周辺では、訪問盗（民家等を訪問し、家人の隙をついて金品を盗む手口）が発生し、警察が注意を呼びかけています。来訪者に対してはまずはインターホンなどで対応し、未確認のまま家の中に入れず、予定なく訪問してきた業者等に対しては、身分証明書を確認しましょう。
- 盗みなどを企てる者は事前に下見をすることが多いので、日頃から住居周辺の不審な車や人物に気を配るとともに、不審なことがあれば警察に通報しましょう（怪しい車のナンバーや不審者の特徴をメモしておきましょう。）。

(3) 外出時

ア スリ

邦人被害が多いのは、リュブリャナ中心部の三本橋、ドラゴン橋やマーケット付近ですが、ブレッド湖やポストイナ洞窟など人気の観光地でも日本人観光客に対する被害が発生しています。

スリ犯の手口は、カバン等から財布を抜き取るものが多く、特に、背中に背負ったバックパックは、チャックが開けられて中身を盗まれることもあります。人混みの中では、カバンは体の前で持ちましょう。

イ 置き引き

レストランや電車内などで置き引きが発生しています。テラス席の足元に置いていたカバンが一瞬のすきに盗まれたケースもあります。自分の荷物には、いつも注意を払いましょう。

ウ 車上ねらい

車内には、なるべく物を置かず、必要な場合は、車外から見えないようにしましょう。

エ ひったくり・路上強盗

リュブリャナ市内で、ひったくりや路上強盗事件が発生しています。夜間の一人歩きはなるべく避け、携帯電話で通話しているときなども、周囲に注意を払いましょう。

4 交通事情と事故対策

- (1) スロベニア内務省の統計によると、2024年中の交通事故死者数は71人で、前年の82人から大幅に減少しました。また、交通事故総数(19,969件)も微減したものの、重傷者数(926人)は増加傾向にあることから、引き続き交通事故に注意する必要があります。
- (2) 交通事故の主な原因は脇見運転、飲酒運転、スピードの出し過ぎ、急な車線変更・追い越し、車間距離が十分でないこと等です。自動車を運転する際には、シートベルトを締めて制限速度や交通法規を守り、防衛運転を心掛けてください。
- (3) 高速道路は整備されていて快適ですが、夜間照明が少なく、また、霧の発生も多く、多重衝突事故も発生していますので、制限速度を守りましょう(特に表示がない場合の高速道路における制限速度は130km/hです。)
- (4) 自動車を購入・登録する際には適用範囲・保証内容が十分な自動車保険に加入してください。また、レンタカーを利用する場合もレンタカーにかけられている自動車保険の内容を確認してください。
- (5) 有料道路を走行するためには、電子ヴィニエッタを購入する必要があります。電子ヴィニエッタはナンバープレートにリンクされていますので、購入する際には、車両のナンバープレートの情報を正確に入力し、正しい料金クラスの電子ヴィニエッタを選択してください。電子ヴィニエッタは、以下のリンク先で購入することができます。
<https://evinjeta.dars.si/en>
- (6) 交通事故に巻き込まれた場合又は目撃した場合には、事故処理を速やかに開始することが重要です。緊急電話番号(112(救急車)、113(警察))に連絡し、まずは、負傷者の応急処置をしてください。道路上で停車する場合、車の列の間に緊急車両が通れるように十分なスペースを空けておくことが重要です。消防隊員、救急隊員、警察官などのため、追い越し車線を走るドライバーはできるだけ左側に、渋滞車線を走るドライバーはできるだけ右側に車を移動させ、緊急車両が事故現場に早く、容易にアクセスできるようにしてください。また、前方車両との車間距離を十分に取しましょう。
- (7) 道路を運転する際には、昼間でもヘッドライトを使用して運転する必要があります。また、車両緊急対応キットとして、予備タイヤ、車載工具、又はタイヤが損傷していても運転できるようにするための適切な装置、三角停止板、車両用救急箱、予備の電球一式、反射ジャケットを携行しておく必要があります。

- (8) 11月15日～3月15日の期間は、冬用タイヤを装着することが義務化されています。

https://ec.europa.eu/transport/road_safety/going_abroad/slovenia/other_en.htm

5 テロ対策

(1) テロの危険性

欧州諸国ではイスラム過激派等によるテロ事件が発生していることから、日本人及び日本権益も、テロを含む様々な事件に巻き込まれる危険があります。

このような情勢を十分に認識し、誘拐、脅迫、テロ等の不測の事態に巻き込まれることがないように、安全対策を講じる必要があります。

テロ事件の発生を予測することは困難ですが、テロ事件の発生場所、時間帯等には傾向があり、この傾向を踏まえて行動するだけでも事件に巻き込まれる可能性を低くすることができます。また、行動の仕方によっては被害を最小限に抑えることができます。

(2) 予防策

- 治安の悪い場所のみならず、テロの標的となりやすい場所（軍・警察・政府関係施設、外国関連施設（大使館等）、宗教施設等）には必要がない限り近づかない。
- 用心を怠らず、目立たない。（直接の標的となることを避けるため服装や行動は目立たないようにする。）
- どのような場所でも非常口や避難ルートについて意識しておく。
- 周囲の不審者・不審物に注意を払う。（大きな荷物、不自然な厚着、挙動不審等に注意する。）
- 不審な状況を察知したら直ぐにその場を離れる。
- 夜間・深夜の外出は控える。
- 現地の報道等を確認して最新の治安やテロ情勢等の情報を入手する。

(3) 対処法

- パニックにおちいらないように「冷静」になる。
- 爆発音や銃撃音等を聞いたらその場に伏せる（柱等頑丈な物の陰に隠れる）。伏せた後に周囲の状況を確認した上で安全な場所に避難する。
- 事件現場周辺にいる場合には、事件現場に絶対に近づかない。周囲に注意しつつ事件現場から避難する（遠ざかる）。
- 事件に遭遇したら、大使館に連絡する。

- 万が一、建物等の下敷きになった場合には、体力の温存を心がけ、有害物質を吸い込まないようにする。また、（テロリストが近くにいないと判断される場合には）パイプなど手近な物を叩き居場所を伝えて助けを求める。

6 誘拐対策

これまでスロベニアにおいて邦人の誘拐被害は発生していませんが、この種の犯罪はいつ発生するか分かりません。被害防止のための留意事項は以下のとおりです。

- （１）勤務先や家庭の周辺、移動時に少しでも普段と違う点がないか注意する習慣をつける。
- （２）一定の行動パターンを作らないようにする。（出勤、帰宅、外出時間がパターン化すると狙われやすくなるので、可能な限り時間帯や道順などを不規則にし、行動を予測しづらくする。）
- （３）子供に対しては、日頃から安全対策について説明し、知らない人物に声をかけられてもついていかないこと、不審者を見たり不審なことがあればすぐに親に知らせること、自宅では来訪者や知らない人物からの電話に対して警戒し何か聞かれても答えないう電話対応時の注意等を指導する。

脅迫・誘拐対策については外務省海外安全ホームページに資料を掲載しているので、参考にしてください。

外務省海外安全ホームページ：https://www.anzen.mofa.go.jp/pamph/pamph_04.html

7 緊急連絡先等

（１）緊急時の連絡先

＜警察＞ 1 1 3

＜消防・救急車＞ 1 1 2

＜リュブリャナ大学病院緊急サービス＞ 01-522-8408／8409

※ 緊急病院の一覧表については、在スロベニア日本大使館ホームページをご覧ください。

各都市の主な緊急病院：

<https://www.si.emb-japan.go.jp/files/100463062.pdf>

＜クレジットカード紛失時＞

○AMERICAN EXPRESS +81 3 6625 9100 ／ +44 20 8840 6462

○VISA +1 303 967 1096

○MASTER +1 636 722 7111

○JCB +81 422 40 8122

＜その他＞

○時間外営業薬局（毎日 24 時間営業）：01-230-6100

薬局名： Lekarna Ljubljana, Lekarna pri polikliniki

住所： Njegoševa cesta 6k, 1000 Ljubljana (リュブリャナ大学病院隣り)

○AMZS (スロベニア自動車・二輪車連盟) :1987 又は+386 530 5353

(道路上で車両の故障などのトラブルに対応してもらう必要がある場合)

○最寄りの警察署：

<https://www.policija.si/eng/about-the-police/organization/police-stations>

(2) 在スロベニア日本国大使館

住所： Trg republike 3/XI, 1000 Ljubljana, Slovenia

電話番号： +386 (0)1 200-8281/8282 (代表)

メールアドレス： info@s2.mofa.go.jp

大使館代表受付時間： 9：00～17：00

領事窓口受付時間： 9：00～12：30、13：30～16：30

(3) NHK短波ラジオ

緊急時において、携帯電話やインターネットなどの情報通信手段が不通となった場合に短波ラジオが有効です。緊急時には、外務省から「NHKワールド ラジオ日本」へ緊急情報放送を依頼することがあります。なお当該短波ラジオの放送時間帯や周波数などについては、以下のホームページを通じて最新の情報をご確認ください。

<https://www3.nhk.or.jp/nhkworld/ja/radio/howto/>

8 緊急時のスロベニア語

「泥 棒」 = タットウ (Tat)

「助けて」 = ナ ポモーチュ (Na pomoc)

「救急車」 = レシルニ アウトオ (resilni avto)

「警 察」 = ポリツィヤ (Policija)

III 緊急事態対処マニュアル

1 平素の準備と心構え

(1) 連絡体制の整備

「在留届」を提出後、転居や家族の移動などにより在留届の記載事項に変更が生じた場合や帰国する場合には、必ず提出した在外公館にご連絡ください。緊急時の連絡は、当該在留届に基づいて行っております。

家族内、企業内での緊急時の連絡方法を日頃から決めておきましょう。また、日頃から行き先・所在を家族や同僚に知らせるようにしましょう。

(2) 避難場所の確認

あらかじめ、家族内、企業内において、緊急事態発生時の避難場所・集合場所を決めておきましょう。

(3) 携行品及び非常用物資の準備

緊急事態の発生時には、買い物が一時的に困難になったり、一定期間自宅待機や避難場所での避難生活を余儀なくされる可能性がありますので、着替え、洗面道具、食料、飲料水、乾電池等は、日頃からある程度買いそろえて準備しておきましょう。

(4) 一般的な感染症対策

- 病人との接触を避け、できるだけ人混みを避ける。
- 野生動物を扱う市場や、これらの動物性食品を避ける。
- 頻繁に石鹸で手洗いをする。
- 野生動物を避ける（生きている動物、死んでいる動物どちらも）
- 感染症に関する報道や公的機関の情報発信に、平素から留意する。

なお、スロベニア国立公衆衛生研究所のホームページでは、感染症に関する最新情報が確認できます。

国立公衆衛生研究所：<https://www.nijz.si>

2 緊急時の行動

(1) 基本的心構え

緊急事態が発生し、又は発生するおそれのある場合、大使館は、所要の情報収集、情勢判断及び対策の策定を行い、緊急電話連絡網、メール等を通じて随時連絡します。平静を保ち、群集心理による騒乱等に巻き込まれないように注意して下さい。

(2) 情勢の把握

- 報道等による情報収集を心掛けてください。
- 電話及びインターネット回線が不通となる事態も予想されますので、短波、FM放送の受信ができるようにしましょう。

(3) 大使館への通報

- ご自身、家族、他の邦人の生命・身体・財産に危害が及んでいる場合、又は及ぶ恐れがあるときは、大使館に通報してください。
- 現場の状況を見て、通報した方が良いと思われるものについても、随時、電話やメール等にて大使館に通報をお願いします。その他の在留邦人の方の貴重な情報となります。

(4) 国外への退避

- 事態が悪化し、ご自身又は会社等の判断により、帰国、あるいは第三国へ退避する場合は、その旨を大使館へ連絡してください。
- 大使館から「退避勧告」が出された場合は、一般商業便が運航している間に、可能な限り早急に国外へ退避して下さい。また、帰国、あるいは待避の日程等をご連絡ください。

- 事態が切迫し、大使館から「避難のための集結の勧告」を受けた場合は、大使館の指示に従い行動してください。

3 緊急事態に備えてのチェックリスト

(1) 全般

- ア 緊急事態の発生により避難しなければならない場合に備えて、非常持ち出し品をまとめて予め常備しておくことをお勧めします。非常持ち出し品については、最初に持ち出す一次持ち出し品と、その後の数日間を自活するための二次持ち出し品に分けて用意すれば状況に応じた持ち出しが可能となります。
- イ 主な非常持ち出し品のリストは別紙のとおりですが、各ご家庭の事情に応じて更に必要なものについて検討の上常備してください。

(2) 非常持ち出し品準備のポイント

- ア 非常持ち出し品は非常袋（家族の人数分）に入れて保管する。
非常持ち出し品の準備に家族全員が参加すれば防災意識が高まり、必要なものを入れ忘れることもありません。また、家族全員で分担して持つことにより一人あたりの重量も軽くできます。
- イ 非常袋の保管場所
いざというときに非常袋をすぐに持ち出せるよう、わかりやすくかつ取り出しやすい場所に保管する。
- ウ 定期的な中身の点検
半年に1回程度定期的に中身を点検し、水、食料品及び薬等については期限切れのものを入れ替え、電池については新しいものに交換する。

緊急事態に備えてのチェックリスト（非常持ち出し品）

確認	品名	備考
<input type="checkbox"/>	旅券	<ul style="list-style-type: none"> ・旅券は常時6か月以上の有効期間があることを確認（6か月以下の場合には、大使館で旅券の切替え申請を行う。） ・旅券最終頁の「所持人記載欄」に情報記載。
<input type="checkbox"/>	当国政府発行身分証明書	（滞在許可証や運転免許証）
<input type="checkbox"/>	通帳類・証書類・印鑑・現金	<ul style="list-style-type: none"> ・預貯金通帳、健康保険証等。 ・緊急連絡先を書いた紙もあると便利。 ・現金は紙幣だけでなく、硬貨も用意。
<input type="checkbox"/>	携帯ラジオ （予備電池も）	<ul style="list-style-type: none"> ・短波放送にも対応しているものがよい。
<input type="checkbox"/>	懐中電灯・ろうそく （予備電池も）	<ul style="list-style-type: none"> ・懐中電灯は頭に装着するヘッドライト型もあると両手を使うことができ便利。 ・ろうそくは太くて安定のよいもの。
<input type="checkbox"/>	ヘルメット・防災ずきん、軍手（手袋）	<ul style="list-style-type: none"> ・建物の落下物等から頭部を守る。 ・避難時には転倒等事故も多いことから用意。
<input type="checkbox"/>	生活用品	<ul style="list-style-type: none"> ・マッチ（ライター）、紙皿、紙コップ、箸又はスプーン・フォーク、ナイフ、缶切り、栓抜き、ティッシュ、おしぼり、ビニールシート、ガムテープ、アルミブランケット、マスク、歯ブラシ、携帯電話の充電器、筆記具等。 ・赤ちゃんがいる場合はほ乳瓶等も。
<input type="checkbox"/>	衣類	<ul style="list-style-type: none"> ・下着、上着、靴下、ハンカチ、タオルなど。 ・赤ちゃんがいる場合は紙おむつ等も。
<input type="checkbox"/>	水	<ul style="list-style-type: none"> ・3日分の場合、一人一日3リットルを目安として9リットル×人数程度。
<input type="checkbox"/>	救急薬品・常備薬	<ul style="list-style-type: none"> ・絆創膏、ガーゼ、包帯、三角巾、体温計、消毒薬、解熱剤、胃腸薬、風邪薬、鎮痛剤、目薬、マスク、とげ抜き等。 ・持病のある人は常備薬も忘れずに。
<input type="checkbox"/>	非常用食料	<ul style="list-style-type: none"> ・少なくとも3日分程度を用意。 ・火を通さなくても食べられるものが便利。 ・赤ちゃんがいる場合は粉ミルク等も。
<input type="checkbox"/>	自動車の準備 （所有している場合のみ）	<ul style="list-style-type: none"> ・自動車は日頃から整備しておく。 ・燃料は常時十分に入れておく。 ・車内には懐中電灯や地図を常備する。